# ロビンソン・クルソオ

（序に代ふる會話）

森林太郎

青空文庫

人物
主人
客
譯者
場所
主人の書齋。主人と客と對坐せるところへ、譯者登場。

主人。暫くでしたね。何か御用ですか。
譯者。あのロビンソンですね。あれがこれまで翻譯にはなつてゐましたが皆文語體ですから、今度口語體に譯したのです。そこで序文を一つ書いてお貰ひ申したいのですが。
主人。さうですか。どうも忙しくて、序文なんぞは書いてゐられませんがなあ。
譯者。併しわたくし共のした事は、あなたのお考へでも無益な事だとはお思ひなさらないでせう。
主人。さう。至極結構な事だと思ひます。
客。御中言だが、僕なんぞはあんな本は、そんなに幾種類も翻譯本を出して流布させたくはないね。
譯者。なぜですか。
客。僕は子供の時に讀ませられたことがあるが、怪しからん本だ。ロビンソン・クルソオと云ふ男は、航海がしたいと云ふので、兩親が泣いて留めるのを聽かずに、家を飛び出す。不孝ではないか。夫から無人島に漂泊する。單身で、人の助を借らずに、物を食つたり、着物を着たり、家に住まつたりする樣になる。フライデエと云ふ黒ん坊を掴まへて、共同生活のやうな事を始める。そのうち舟に助けられて國へ歸る。その間、人の助を借らずに、自活したのを得意としてゐるらしい。そんな事がなんになるのか。人間は親があつての子である。先祖があつての子孫である。國家があつての臣民である。家族や國家を離れて生活したつて、そんな生活はなんの價値もない。その價値のない生活をしてゐる間、本國たる英國政府に對する、あらゆる義務を果さずにゐる。不忠ではないか。
譯者。なる程。あなたのお考へは大抵分かりました。詰まり忠孝を標準としてのお説ですね。多分あなたは漢學者でお出でなさるでせう。それはロビンソンが父の言ふことを聽いて、法律學を勉強して、商業の手傳をして育つて行つて、めでたく父の跡續ぎになり、自治團體の名譽職にでもなつたら、それも結構でせう。併し權は經に反して道に合ふとか申すではございませんか。生れ附き航海が好きで、親の家で、平凡な生活がしたくないので、飛び出したのですね。そして非常な艱難に遭遇する。それに屈せずに、人の力を借らないで、生活の基礎を据ゑる。獸と闘ひ、人と闘つて、秩序ある社會の萌芽とも見るべき狀態が出來るまで漕ぎ附ける。此間の行狀を見ると、ロビンソンと云ふ男は、あれで法律を學べば、立派な法律家になり、商業をすれば立派な商業家になる人物だと云ふことを證據立ててゐるのではありますまいか。そこでわたくし共の考へでは、ロビンソンのやうに權變に處して行くことの出來るのは、矢張經に反して道に合つてゐるやうに思ふのです。
客。ふん。あなたの御辯解は少しも辯解になつてゐないね。あなた

は吾輩が忠孝と云つたと云ふので、吾輩を漢學者扱ひにして、經だの權だのと云はれるが、それは大間違である、吾輩は漢學は大嫌ひだ。受禪だの放伐だのと云ふ怪しからん事をした時代を、黄金時代だと心得て、先王の道がどうのかうのと難有がる。革命なんと云ふ語をさへ、易の中で造り出したのを、結構な事だと思つてゐる。吾輩は漢學者の道と稱してゐるものを、凡て危險思想だと信じてゐるから、吾輩の立場から見れば、道に合ふも合はぬも無い。

譯者。ははあ。さう云ふお考へですか。そして忠孝といふ標準的概念はどこからお取りになるのでせう。

客。君は忠孝といふものが支那にしか無いと思ふのか。

譯者。そんな事は思ひません。併しあれは漢學から出た概念ですから。

客。漢學から出ても、今の國家が好いと認めてゐるから宜しいのだ。漢學が宜しいのではない。葬式は僧侶にさせる。これも國家が許してゐるから宜しい。佛法が宜しいのではない。政治は立憲政體になつてゐる。これも國家が立ててゐるから宜しい。西洋の政治學が宜しいのではない。

譯者。なる程。それではあなたの宜しいと仰やるのは、只國法の許すことをしてゐて、それから國家が好いと認めてゐる德義の標準に隨つて生活してゐると云ふ丈ですね。それ丈の事なら、それは誰だつてしてゐますでせう。併しそれ丈では、人間は永遠に因襲の範圍内に囚はれてゐて、一歩もそれより外に踏み出すことは出來ないのですね。新しい事と云ふものは絶待的に出來なくなつてしまひますね。進歩と云ふものが全く無くなつてしまひますね。

客。進歩は無くなりはしない。昔律令を定められた時は支那の制度を參考にせられた。あれは日本の制度が出來たので、支那のものを取つたのではない。又それが出來た上はもう支那の事を顧みるには及ばない。立憲政體が立つた時、西洋の制度を參考にせられた。これも日本で出來たので、西洋のものを取つたのではない。又それが出來た上はもう西洋の政治學を顧みるには及ばない。これから先きでも、新しい事を國家が好いと認めることが幾らも有るだらう。その時外國の事を參考にせられるかも知れない。國家が好いと認めて、日本の物になつた事柄なら、それを行ふが宜しい。それが進歩ではないか。

譯者。それでは我々は進歩の跡を追つ掛けて行くに過ぎないではありませんか。

客。被治者は跡から附いて來べきものだ。

譯者。それは行政上の事ならそれで好いでせう。併し宗教や學問や藝術のやうな思想上の事はさうは行きますまい。思想上の事には自由が與へられてあるのですから。

客。それは安寧秩序を妨げたり、臣民の義務に背かせない限りの自由である。安寧秩序を妨げたり、臣民の義務に背かせるやうな思想は危險思想である。宗教であらうが、學問であらうが、藝術であらうが、危險思想である限りは、それを信仰したり、言論著作に發表したりしてはならない。それをするものは危險人物である。亂臣賊子である。非國民である。

譯者。それは分かつてゐます。無政府主義なんぞは鎭壓しなくてはなりません。

客。無政府主義は、澤山ある危險思想の中の一つに過ぎない。共和

主義、革命主義、社會主義、共産主義、民政主義、自由主義、進歩主義、無神主義、自然主義、個人主義。

譯者。それでは保守主義の外は、なんでも危險思想になるやうですね。

客。無論。

譯者。（アイロニイの調子。）併しビザンチニスム、シヨオヰニスム、セルヰリスムなんと云ふのはどうでせう。

客。それは危險思想ではない。危險人物が保守主義に附た仇名である。

譯者。なる程さう思つてお出でゞすか。僕なんぞのやうに文藝を遣つてゐるものは、政治上の思想なんぞに就いては、餘り痛癢を感じませんが、自然主義はなぜ危險なのですか。

客。自然主義は自由戀愛主義である。自由戀愛をすれば夫婦が無くなる。族制が無くなる。所有權が無くなる。國家が無くなる。

譯者。へえ。それは始て伺ひます。僕なんぞは自由戀愛と云ふものは、社會主義者なんぞの方では唱へてゐても、自然主義には關係がないと思つてゐましたが。

客。君なんぞがなんと思つたつて構はない。國家がさう認めてゐる。

譯者。そして個人主義は。

客。人は國家を組み立てゝゐる一元子として價値がある。納稅をすれば好い。兵役に服すれば好い。若し個人その物に價値があるなんぞと思ふと金も惜しくなる。命も惜しくなる。人を倒して自分が大きくならうとする。國家に對して義務を果すことを厭がる。國家はどうなつても好いと思ふ。それを個人主義とも個人本位とも云ふのだ。

譯者。へえ。それも始て伺ひます。それでは利己主義から社會主義や無政府主義になる人の事ばかり言つてお出でなさるやうですね。個人その物に價値があると思つたつて、同時に他人の價値を認めるから、利己主義になるとは極まつてゐますまい。その價値のあるものを社會の爲め、國家の爲めに犧牲にする處に、人生の高尚な一面があるのではないでせうか。どうも個人主義が即ち利己主義だとするのは、間違つてゐるやうですが。

客。そりやあ君一個の私見だ。

譯者。併し誰の書いた本を見ても。

客。待ち給へ。それは西洋の本や、西洋の學問をした奴等の書いた本だらう。

譯者。さうです。どうせ主義がどうのかうのと云ふやうな論をしてゐるのは、新しい學者です。西洋の學問をした學者です。さう云ふ學者が個人主義と利己主義とを別にしてゐます。失敬ですが、あなたの方が却て一個の私見ではありますまいか。

客。失敬な。國家がさう認めてゐる。

譯者。さうですかね。僕だつて日本の國體は類のない、結構な國體だと思つてゐます。租稅は甘んじて納めてゐます。一年志願兵を濟ませて、今でも豫備役になつてゐます。召集せられれば、いつでも出て行きます。親は大切にしてゐます。社會主義には反對です。無政府主義には大反對です。併し飯を食ふのは、租稅を納める爲めに働かれるやうに體を養ふのだ、戰爭に出て働かれるやうに體を養ふのだと思つて食ふのではなくて、腹が減つた時旨いと思つて食ふのです。女を可哀がるのは子を生ませて兵隊にする爲めだ、先祖を祀らせる爲めだと思つて可哀がるのではなくて、只

可哀いから可哀がるのです。要するに自分の個人としての價値を忘れることは出來ません。僕は拙いながら文藝を遣つてゐますが、只專心に自分の藝術家としての良心を滿足させようと思つて、作をしてゐます。それは書いた本が售れて金が儲かつたら納稅は甘んじてしませう。併しそんな事は、作をする時考へてはゐません。腹が減つて飯を食ふ時でも、女を可哀がる時でも、絶えず國家との關係を思つてしてゐるのではありません。勿論思慮が國家の事に及ぶことはあります。併しそれが不斷ではありません。それですから、あなたの説で見ると、僕はどうしても個人本位とか個人主義とか云はれることになります。その癖僕は利己主義は大嫌ひで、献身的行爲が好きですが。

客。それは五十歩百歩の論だ。

譯者。さうですかね。それでは僕は危險人物だとせられても、しかたがないかも知れません。併し僕はあなたのお説には服しません。

（主人に。）そこでロビンソンですが、只今承つたところでは、不忠不孝の人を書いた本ださうですが、兎に角僕なんぞは好きな本で、こん度譯するにも好んで譯したのです。僕は一體創業といふことが好きです。どうせ新しい事を起すには、周圍に反抗して、因襲を破つて行くのです。それですから、きつと親の同意を得てからする、きつと國家の承認を受けてからすると云ふ譯には行かないのですね。漢の高祖の天下を取つた話が好きです。ナポレオンが好きです。釋迦やキリストが好きです。マルチン・ルテルが好きです。詰まりさう云ふ人物のする事を原始的に考へて見ると、ロビンソンになるのではないでせうか。それで僕の氣に入るのではないでせうか。

主人。さうでせう。僕には君の心持は好く分つてゐます。詰まり君は守成者よりは創業者が好きだ。司祭よりは豫言者が好きだと云ふのですね。征服者も同じでせう。冒險者も或は同じでせう。兎角さう云ふ人物は、親の言ふことを聽かなかつたり、國家の制度を守らなかつたりする。さう云ふ事蹟を危險だからと云つて皆湮滅させてしまふわけには行きますまい。國家だつて、まさかさうしようと思つてもゐますまい。現にロビンソンの譯本だつて、これまで發賣禁止にはなつてゐません。あれも Alexander Selkirk とか云ふ水兵の實事譚を種子にして作つたものださうですが、西班牙の海上權を打ち破る程の海軍も、一人手放した時、あれ程の爲事をする水夫のゐる國だから、發展することが出來たのでせう。

僕は口語體で讀み易い譯本を出すことに贊成しますね。

客。僕は國家が禁止してゐない本の事だから、強ひて故障は言はない。

主人。（客に。）大そう寬大だね。僕だつて凡てレガルな行爲は結構だと思ふ。併し君は官吏や官吏の手先きの云つた事を、直ぐに國家がかう認めたなんと云ふが、あれは困るね。

客。吾輩はそれで好いと思ふ。法律命令にあることは、法律命令に據る。官報にある事は、官報に據る。半官報にある事は、半官報に據る。

譯者。（アイロニイの調子。）御用記者の書いた物にある事は御用記者の書いた物に據るですか。

客。無論。

譯者。（主人に。）そこで序文は。

主人。駄目ですね。君自分でけふの會話をでも書いたらどうですか。

# 青空文庫情報

底本：「鴎外全集第八巻」岩波書店
　1972（昭和47）年6月22日発行
底本の親本：「漂流物語ロビンソン・クルーソー」富田文陽堂
　1911（明治44）年5月10日
初出：「漂流物語ロビンソン・クルーソー」富田文陽堂
　1911（明治44）年5月10日
入力：阿部哲也
校正：米田
2012年1月4日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# ロビンソン・クルソオ

（序に代ふる會話）

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

著者　　森林太郎
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/